

よげんしゃさまのヒジュラ



マッカで、ムスリムがたくさんひどいめにあうようになると、アッラーのめいれいにより、ムスリムたちは、ひそかにマディーナへと移住（ひっこし）をはじめました。よげんしゃさまは、さいごまでのこり、アッラーのめいれいがくるのをまちました。
親友のアーブークルさまと、いとこのアリーさまも、まだマッカにいました。そのころ、てきの多神教徒たちは、よげんしゃさまをみんなでころすけいかくをたてていました。アッラーからヒジュラのめいれいがくだると、よげんしゃさまは、アーブークルさまのいえへいきました。アーブークルさまは、よげんしゃさまといっしょにいけることを泣きながらよろこび、よういしていたラクダをのりものとしてさしだしました。よげんしゃさまは「ただでもらうことはできません」と、そのだいきんをはらい、ラクダをうけとりました。そのラクダのなまえはカスクワでした。



そして、ヒジュラのよる、ジブリールさまがしらせにきたアッラーのめいれいにしたがい、よげんしゃさまのねどこで、かわりにアリーさまがよこになりました。そして、よげんしゃさまは、マッカのひとたちからあずかっていたものを、アリーさまにわたして、「きちんともちぬしかえしてください」とおねがいしてから、よなかに家をでて、アーブークルさまの家へむかいました。このとき、家のまわりでみはつていたひとたちは、アッラーの力によって、ねむくなり、よげんしゃさまのでていくすがたをみることはできませんでした。

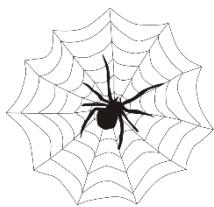


© Can Stock Photo
よげんしゃさまとアーブークルさまは、マディーナとは、はんたいのほうこうの、サウル山のどうくつへむかいました。そこへたどりつくまで、アーブークルさまは、よげんしゃさまをまもるために、よげんしゃさまのまえやうしろ、みぎやひだりへとうごきながらすすみました。そして、「なにかわることがあれば、わたしにおきてほしい、とねがっています。あなたのためにわたしはさせになります。」といいました。どうくつについたあとも、アーブークルさまはよげんしゃさまに外でまつっていてもらい、じぶんがさいしょに入つて、中をてんけんしました。そして、たくさんあつた穴を、じぶんのふくをちぎつてつめこみ、ふさぎました。さいごにのこつた

ひとつの穴は、じぶんの足でふさぎました。どうくつの中で、アーブークルさまのひざの上でよげんしゃさま^ﷺがおやすみになっているときに、とつぜん、アーブークルさまの足をサソリがかみました。しかし、アーブークルさまは、よげんしゃさま^ﷺをおこさないようにとひつしにいたみをがまんしましたので、よげんしゃさま^ﷺは、アーブークルさまの涙^{なみだ}がかおの上^{うえ}におちるまで、そのことにきづかないほどでした。



そのころ、てきの多神教徒たちは、どうくつのすぐ前までやってきました。てきがちかづいてくるのを見て、アーブークルさまは、「かれらがあしもとをみれば、わたしたちはみつかってしまいます！」としんぱいしました。すると、よげんしゃさま^ﷺは、「しんぱいしてはならない。アッラーはわたしたちといっしょにいらっしゃる。」といいました。そのとき、どうくつのいりぐちにクモが巣^すをはり、ハトが巣^すの中で卵^{なめこ}をあたためていたので、多神教徒たちは、どうくつの中を見ずにいつてしましました。



よげんしゃさま^ﷺとアーブークルさまは、このどうくつの中で3かかん、すごしました。アーブークルさまのむすこ、アドウッラーさまが、よるになると、マツカのようすをつたえにきました。また、ひつじをつれてきては、よげんしゃさまたちにミルクをのませ、ひつじをつれてかえることで、足^{あし}とをけしました。アーブークルさまのむすめ、アスマーさまは、おなかにあかちゃんがいましたが、よげんしゃさま^ﷺたちのためにどうくつまでたべものをはこびました。



そして、4かめにはどうくつをしゅっぱつし、マディーナへとむかいました。マディーナにはよげんしゃさま^ﷺのおうまれになった日である、ラビーウルアウワルの12日につきました。